

日本の色 若緑:みずみずしい緑色。真新しい畳を思わせる色。張り替えたばかりの畳はその香りはもちろん、色もまた心を癒してくれる。

過ごし方



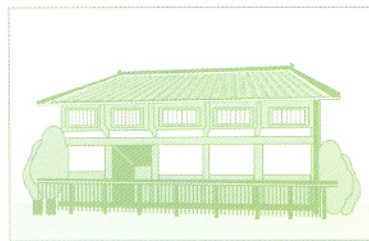
旅館が減りホテルが増える一方で、利用客の80%が外国人という日本情緒が人気の旅館もある。また現代の生活様式に合わせ、従来の1泊2食の形態から、1泊朝食のみの「片泊まり」スタイルの旅館も増えてきた。日本旅館のサービスも多様化しているので、それぞれのお好みに応じて過ごせばよい。

旅館だと「チップ」をどうすればよいのか、安全とプライバシーを確保できるのかという懸念を抱く人もいる。日本ではチップ制が馴染まないため、利用客に対して「サービス料」が課せられているので、旅館ではチップを渡す必要はない。部屋付きの仲居さんのサービスについても、事前に旅館へ話しておけば、可能な限り要望は聞き入れてくれるはずだ。

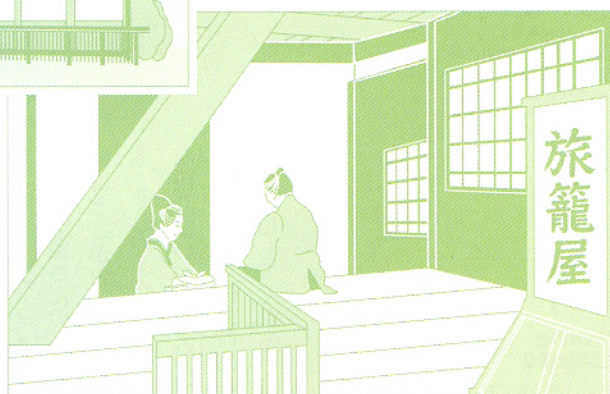
旅館はいろいろと気を使ってくつろげないと、先入観で敬遠するのではなく、宿の人との心の交流や、すべてに身を委ね、何もしないことの贅沢さを味わうのもよいのではないだろうか。



Choko Saito  
齋藤朝子氏  
1938年生まれ。61年山翠楼に入社。専務、副社長を経て、2000年より同社社長に。  
海石榴  
神奈川県足柄下郡湯河原町  
宮上776  
電話・0465-63-3333



庶民のための宿「旅籠」  
当初は宿泊のための場所であり、食事は旅行者がそれぞれ持参した。庶民の旅行者だけでなく、参勤交代のお供の者たちも利用した。



text by 渡辺幸裕 (案内人) + photographs by 稲垣純也

日本を感じる空間

「旅館は日本の生活文化を総合した形態です」。奥湯河原にある割烹旅館海石榴の主人、齋藤朝子さんに日本旅館の楽しみ方を聞いた時に言われた言葉である。

朝昼晩の食事、風呂、おもてなし、旅館内の調度品、それらすべてが日本を感じさせる。畳の上で寝転がる楽しみを味わえるのは、今や日本旅館だけになった気がして、部屋の中で大の字になってみた。目に入る天井の木目、ほのかに草の香り、日本人であることが再認識するような懐かしい感じがしてきた。

市街地の旅館は次々ホテルに変化し、出張で旅館を使う人などもまれである。温泉や観光地でもホテル形式が増えているが、海石榴のような割烹旅館は、会食や小宴会だけでも利用できる、「日本のおもてなし空間」と呼んでも差し支えない場所なのである。

床の間、掛け軸、生け花、庭、遠くの景色を見ながら日本茶を飲む。山を見ながら風呂に漬かり、浴衣を着てくつろぎ、仲居さんの

日本旅館の流れ

靴を脱いだ瞬間から、ゆるりと心の緊張を解き、旅館の温かいおもてなしに身を委ね、和の空間に浸る。日本旅館の発展を学び、その素晴らしさを知る。

645年:大化の改新で、唐の制度に倣い、駅制が確立された。これによって設置された駅舎、厩舎が旅館設備の起源となる。当時これは公用の官吏のための宿泊・給食施設だった。

奈良時代:僧・行基が、旅行者の無料宿泊施設として、交通路の要所に布施屋を設置。

平安時代:旅中の病人や飢えに苦しむ者のための悲田処(ひでんじょ)や、救急院などが置かれた。

鎌倉時代:熊野詣で、伊勢詣でなどの影響で、旅館が発達し、庶民のための宿坊や宿院などの宿泊所も現れた。当時は木銭(きせん・宿に払う薪の代金)を払い、食事は自前で用意する形態であった。

室町・戦国時代:商業発展や社寺参詣の流行により、庶民の旅が増え、その影響で旅籠が発生した。

江戸初期:宿駅制が全国統一され、本陣・旅籠などの宿場町が形成された。本陣は特権者や外国人用の宿泊所として利用されたが、1870年、本陣廃止令により廃止された。一方、旅籠は庶民の宿舎として発達。宿料は木銭が基準だったが、17世紀には、木銭、食事代、宿泊代を宿料とするようになった。

江戸後期:旅籠は急速に発達し、宿泊と食事を提供するようになる。

参考文献:日本大百科全書

宿泊だけでないおもてなしの場所

やまと  
日本の流れ

連載第二十四回 生活文化を総合した空間

贅を尽くす日本旅館

真の国際化とは自分の国を知ること。日本の生活文化が一堂に会した場所、日本旅館。空間、物、精神、そのすべてから日本の心を感じたい。





さらに深める参考情報…

【書籍】

『クロワッサン25年の歴史が選んだ日本の宿スペシャル』(マガジンハウス)  
『CRAEA Due TRAVELLER 「和のリゾート」最新案内』(文芸春秋)  
『こころを癒す自然の宿』(シンラ編集部編、新潮社)

【ウェブサイト】

国際観光旅館連盟  
http://www.ryokan.or.jp/  
日本の宿を守る会  
http://www.yadoya.com/  
ジャパンナレッジ  
http://www.japanknowledge.com/  
海石榴  
http://www.tubaki.net

— 日本旅館を楽しむ装い —

葡萄唐草文様の夏大島に、淡いピンクの帯をコーディネート。帯は銀座もとじのオリジナル。  
(吉乃文子さん=読者、メーカー勤務)



紺紗織の涼しげな着物に、紋紗織の色無地羽織を合わせる。盛夏向けの涼しい装い。(渡辺幸裕)

着物撮影協力/銀座もとじ

案内人・文 渡辺幸裕(わたなべ ゆきひろ)  
ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

【告知】

日本かぶれの会  
1周年記念懇親会

今号で「日本かぶれ」は1周年を迎えました。リニューアルして再開するため、連載はしばらく休みに入りますが、1周年を記念して懇親会を開きたいと思っております。弊誌編集長とナビゲーター渡辺幸裕氏の対談や質問タイム、そして簡単な立食パーティーを考えております。ぜひご応募ください。

日時：9月28日(水) 19:30～21:30  
会場：日経BP社(東京・千代田区)  
募集人数：15人  
参加実費：3000円(予定)  
締め切り：8月23日(火)  
応募方法：http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato22/で必要事項をご入力ください。  
発表：抽選のうえ、当選者に直接ご連絡します。

ご応募いただいた方に、本誌の取材協力者として取材や写真撮影をお願いすることがございます。ただし、これら以外の目的で応募者の個人情報を使用することはございません。

旅館の楽しみ

その地ならではの料理や、広いお風呂だけでなく、照明、器、庭の造形、欄間や掛け軸など、脈々と受け継がれる伝統工芸に触れる楽しみもある。

照明：各部屋の入り口に意匠を凝らした照明が置いてある。木の板を裏から削り、絵柄を映し出す。



風呂：奥湯河原の温泉を堪能できる。広い湯船で身体の凝りをほぐし、外に造られた庭の景色が、心を静かに癒してくれる。



部屋：窓の外景色はもちろん、畳、掛け軸、そして四季折々の生け花も、日本のくつろぎ空間を演出している。



器：料理や季節に合わせて様々な器が使用されている。その形、色、絵柄を料理とともに味わいたい。

日本人であることを思い出す空間

サービスを受ける。部屋でゆつくりと料理を味わい布団で眠る。日本の気分浸れる至高の時間だ。

何もしないことの贅沢さ

我々がビジネスで使うホテルは

あくまでも西洋式。ドアを開けて出た廊下はパブリック空間であるが、旅館は玄関で靴を脱いだ時からくつろげる。「お客様をお守りする」という気持ちで迎え「ます」という齋藤さんの言葉通り、旅館にはどこか安心させる空気がある。そして、宿泊客の要望も可能な限り聞いてくれる。ゴルフだから頼めば、出発時間に合わせて朝食を出してくれる。客のわがまま

ままでできる限り許してくれるのが旅館の良さでもある。旅館での過ごし方を聞くと、「普段の忙しさを忘れて何もせず ゆつたりと過ごされるのも一つの方法ですね」と齋藤さんは答えてくれた。

外国からの顧客を旅館に案内すれば、日本の伝統と文化を満喫してもらえるのは当然だが、その前にまず日本人である我々が旅館の、賢くスマートな利用法を知る必要がある。床の間や襖などに関しても少しは解説できるようにしたいものだ。「日本かぶれ」は今号で第1部終了です。リニューアルして再開する予定ですので、お楽しみに。